

ときめき インタビュー



市川 由紀乃
いちかわ ゆきの/Yukino Ichikawa

…プロフィール…

本名・松村真利。昭和51年1月8日、さいたま市生まれ。中学1年生のとき越谷に移り住み、光陽中学校を卒業。平成5年8月21日、高校在学中の17歳のとき『おんなの祭り』で歌手デビュー。平成13年に発売した『さいはて海峡』がオリコン演歌・歌謡曲チャートで初登場1位を獲得するも、翌年4月から活動を休止。平成18年に歌手復帰し、平成28年、デビュー24年目にして「NHK紅白歌合戦」に初出場を果たした。キングレコード所属。

デビュー10年目 燃え尽き症候群に



デビュー当時。左はお母さん

昨年、デビュー24年目にして念願の「NHK紅白歌合戦」に初出場を果たした歌手・市川由紀乃さん。近年は新曲を発表するたび、オリコンの演歌・歌謡曲チャートで1位となり、今最もカラオケで歌われる演歌歌手」ともいわれるほどの人気を誇っています。越谷で育ち、さまざまな経験を乗り越えて25周年を迎えた市川さんにお話を伺いました。

母・兄とともに 越谷での再出発

市川さんは当時の浦和市（現さいたま市）に生まれ、歌が大好きな家族に囲まれて育ったそうです。

「特に祖父母がいつも演歌を歌っている人だったので、幼い頃から自然に演歌を覚えていました。近所のカラオケ大会などで子どもの私が演歌を歌うと、周りのみんなが喜んでくれるのがうれしくて、次々新しい曲を覚えて披露してましたね」

そんな市川さんは両親の離婚を

機に、中学1年生のとき越谷に移り住みます。

「母と兄と3人で越谷に引っ越してきた時は不安だらけ。でも編入した光陽中学校でいい友達とい先生に出会えて、本当に救われましたね。中3のとき、ほんの数日でしたが、学校に行きたくなくなりましたが、担任の先生が毎朝、『ほら行くよ！』と明るく迎えて来てくれて。越谷に来てよかったなとしみじみ思いました」

多感な中学時代に演歌歌手への夢を抱き始めた市川さんは、歌謡大会やカラオケ大会に挑戦するようになります。



広報こしがやの取材に「将来は歌手になりたい」と話していた14歳の市川さん。決めたことを最後までやり抜くしんの強さは当時から

「このころ、広報こしがやの『わがまちこの人』で取材されたことがあるんですよ。いろいろな大会に出ましたが、準優勝はできても優勝ができませんでした」

落選が続く、夢はかなわないのかと思いはじめた16歳のとき、転機が訪れます。埼玉新聞社主催のカラオケ大会で優勝。大会を見ていた芸能関係者にスカウトされて、

芝居を交えたショーにも挑戦してみたい

今年でデビューから25年、着実に実力と実績を積んできた市川さんに今後の目標を伺うと、

「仕事の面では、私はお芝居が好きなので、新歌舞伎座や明治座などで諸先輩がやっていたりするようなお芝居と歌の二部構成の公演をいつかやってみたいです。プライベートでは結婚も考えていきたいですね。母が元氣なうちに、この人と一緒に歩いていきたいと思います」

多忙な市川さんですが、越谷の実家にはできるだけ顔を出し、お母さんと買い物に行くことも多いそうです。

「変装は全然しないんですが、掛けてくださいね」

「紅白に出たい！」と宣言した年に出場がかない、目標を言葉にする大切さを知りました。

祝・2年連続！
今年も「紅白」
出場決定！！



歌手 市川 由紀乃 さん

越谷のお気に入りの場所は、花田苑。「和のたたまいと四季を感じられるところが大好きです」



平成30年1月17日発売予定
「うたかたの女」のCDジャケット



大先輩・五木ひろしさんとのステージ



平成29年9月に行われた浅草公会堂でのコンサート

応援してくださいの方のためにも、もっと自分の気持ちを伝えていかなきゃいけないと強く思いました。それで昨年の年頭に、今年絶対紅白に出たいです！と初めて宣言したら、本当に夢がかなったんです

そして、さらに充実した1年間だったという今年も紅白出場が決定。2年連続で大みそかの晴れ舞台を踏みます。